

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 6年次生 C.O

1. はじめに

令和7年9月21日（日）から9月24日（水）までの4日間、シンガポールで開催された 23rd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT)に参加し、「Elucidation of the mechanism of lorlatinib-induced liver injury」という演題でポスター発表（口頭発表）を行いましたので、ここに報告いたします。



チャンギ空港

2. IATDMCT について

International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT)は TDM と臨床毒性学に関連する国際学会です。23 回目の今年はシンガポールにて開催され、世界各国から医師や薬剤師、専門家等の方々が参加されました。私は HITACHI Industry workshop、Congress Dinner、Young Scientist Dinner 等で海外交流を行いました。



Workshop での交流

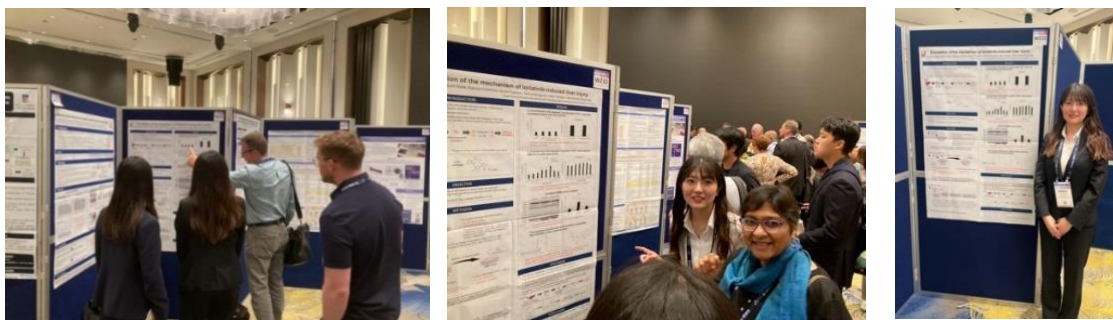


学会会場

3. ポスター発表について

私は9月23日に「Elucidation of the mechanism of lorlatinib-induced liver injury」という演題でポスター発表を行いました。発表は3分間のプレゼンテーションと2分間の質疑応答で構成されていました。発表に向けては、事前に原稿を作成し、英語のアクセントや発音に注意しながら練習を重ねました。また、ポスターのグラフを適宜用いて説明をする練習を行い、発表内容の整理と表現の工夫に努めました。その成果もあり、制限時間内に発表を終え、概ね伝えたい内容を発表することができました。質疑応答の場面では、英語で自分の考えを的確に伝え、議論をスムーズに進めることの難しさを実感しました。この経験を通して、英語でも母国語と同じように円滑に意見交換ができるよう、今後さらに英語力を向上させたいと感じました。

質疑応答の中でも特に印象的だったのは、私が発表した薬剤が臨床現場でよく使用されていることから、実務的な観点から質問してくださった方とのやり取りでした。その方が日々の業務と学びを結びつけて取り組まれている姿勢に深く感銘を受け、私自身も将来そのように実務と学びを両立させながら成長していきたいと強く感じました。



ポスター発表での様子

4. 海外の方との交流

Young Scientists Dinner は、40歳以下の若手研究者を対象とした交流会が開かれました。夕食の場では、英語でそれぞれの研究内容や日常の趣味などについて語り合い、互いのバックグラウンドを共有することができました。英語でのコミュニケーションは次第に打ち解け、国籍や分野を超えて意見を交わすことができたのは非常に貴重な経験でした。その後はカラオケにも行き、皆で大きな声で歌いながら盛り上がり、終始笑顔の絶えない時間を過ごしました。学会の雰囲気とはまた違う形で交流を深めることができ、忘れられないひとときとなりました。



カラオケでの様子

5. 開催地について

シンガポールは多様な民族と文化が共存する国です。都市全体が清潔で整備されており、交通の利便性も高く快適に滞在することができました。昼間は近代的な建物と自然豊かな緑がうまく調和した街並みが印象的で、夜にはマーライオンやマリーナベイサンズなどがライトアップされた美しい夜景を楽しむことができました。



観光地

6. 最後に

国際交流基金の支援により IATDMCT 学会に参加する貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。世界中の専門家と交流し、最新の研究や臨床の知見に触れることで多くの刺激を受けました。将来薬剤師としてのキャリアビジョンも広がり、大きな学びとなる非常に有意義な経験となりました。